

- 日時: 2020年10月14日(水)～10月16日(金)
- 場所: 1～2日目 会場:ニセコ町民センター 小ホール  
3日目:フィールドワーク:ニセコフットパス、有島記念館、高橋牧場
- 講師: GSTC公認トレーナー 荒井一洋 氏、講師サポート 岡田美奈子
- 参加者数: モデル地区から13名、パートナー地域等から7名 合計20名
- 内容:

2020年9月30日(水)	13:00-13:05 開会あいさつ 13:05-13:10 ニセコ町 片山町長 ごあいさつ 13:05-14:30 持続可能な観光の全体像とGSTCについて 14:30-16:00 講義① 持続可能なマネジメント 16:00-18:00 講義② 社会経済のサステナビリティ
2020年10月1日(木)	9:00-12:00 講義③ 文化的サステナビリティ 13:00-15:00 講義④ 環境のサステナビリティ ※グループディスカッション含む 15:00-15:30 取り組み報告「観光振興ビジョンにおける持続可能な観光の位置づけ」(ニセコ町) 15:30-18:00 総括のワークショップ
2020年10月2日(金)	10:00-16:00 フィールドワーク:体験・視察 午前:「ニセコフットパスを歩く～文学・歴史の散歩道～」 有島記念館～有島武郎の相互扶助の思想～ 午後:高橋牧場～牛にストレスを与えない牧舎～ 15:50-17:00 3日間の振り返り、閉会あいさつ

## 1日目～2日目 座学の風景

片山町長ごあいさつ



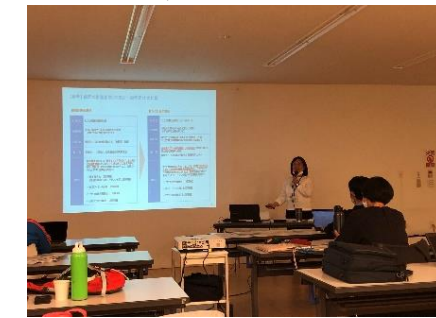
講義



講義



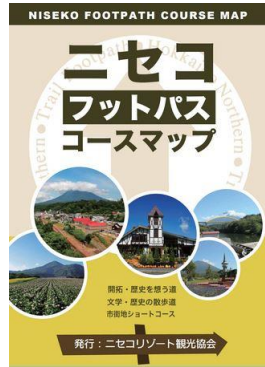
事例発表



アクティビティ・グループディスカッション

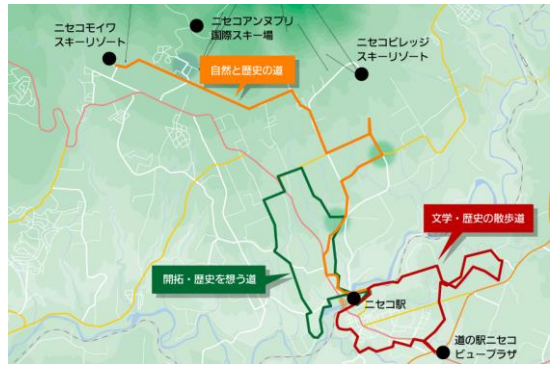






## 10:00~12:30 ニセコフットパス協会 会長 工藤 達人 氏によるご案内で視察

ニセコ町の地域資源である「フットパス」を通じて、ニセコ観光の魅力やニセコの自然環境への理解を深めながら、地域での環境への取組を知る。「ニセコフットパス」は、自然・観光・農業といった町の特徴を生かし、主に「自然と歴史の道」「開拓・歴史を想う道」「自然・観光・農業」の基本コースを設定。今回は、「自然と歴史の道」のテーマのもと、有島農場や町の歴史の跡、第二カシュンベツ川沿いなどを散策しながら、持続可能な観光について現場での実践を考え、学んだ。



有島武郎の小説「親子」の舞台となった坂をのぼると有島記念館。ニセコの地で画期的な農場開放を実践した有島武郎への感謝の意から建設。ニセコの自然保護、農業発展と文化的背景を学ぶ貴重な資源(C1,D1)

フットパスのサイン。木道の管理はどこがしているのか？(C6,D2)



地域の貴重な財産である水資源。水路の発展や住民と一緒になった保全の取組について説明(A5,D6)



←武郎の生涯と有島農場のあゆみを貴重な資料の数々を通じてガイドが紹介(C7)



絶滅危惧種の繁殖について説明、自然保護への理解と協力を啓発(D2,D3,D4)→

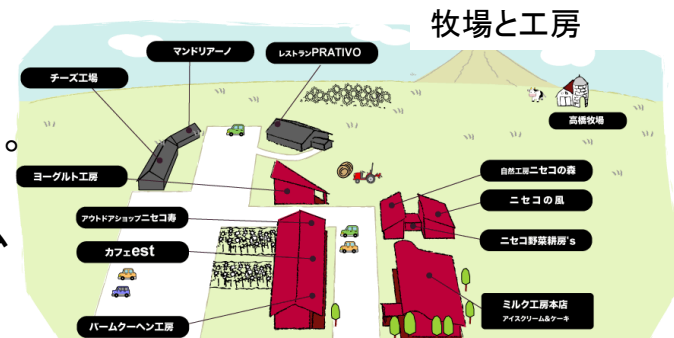
※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号





## 13:00~13:40 (株)高橋牧場 店長代理 高井 啓 氏による講義

1941年頃から乳牛の飼育を開始、1970年に、現在、代表者の高橋守氏が事業を継承。1997年、ミルク工房開業。2010年に(株)高橋牧場を設立。創業以来、幾度にわたる“牛乳”の生産調整により牛乳の販売に制約がある中、牛乳だけでなくアイスクリームなどの加工品の開発・販売を進めてきたことや、商品を生産している工場を見学できるようにし、観光の力も後押しとなり危機を乗り越えてきた。機械を取り入れた合理的な酪農は、牛の福祉にも貢献。健康な牛の牛乳は多くの人に喜ばれ、来訪者も増加している。



### 視察前の事前講義

## 14:00 ~ 15:30 高橋牧場、ミルク工房視察

良質な牧草づくりの工夫、自動搾乳機の導入、牛舎の構造、安全管理や衛生面等含む持続可能な農業の方針や対応など説明((A2,A11))



牧場用に新たに土地を購入し開発を進めた際に、十分に周囲の景観に配慮ができていなかったことは課題と感じている。自社事業による周囲への影響は確認することが必要と認識。(A9,B3,B6)

今後は、SDGsへの取組も視野に入れた高橋牧場の目標。未来に向けて、地域一体となった、持続可能な地域づくりを目指している。(A2,A3,B1)

「良い土づくりをし、良質な牧草を作らなければ良い牛は作れない」という強い想いのもと、フリーストール(放し飼い方式)ロボット牛舎を構築。2016年には、搾乳ロボットを導入。これにより、1日2回だった搾乳が4回~最大5回となり、牛のストレスの軽減と乳量増を実現。牛の快適性を高め、健康に乳量の増加を図ると共に、人間の労働力削減にも取り組む。(B2,B5)



※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号

## ニセコフットパス体験、および、有島武郎記念館

### (1) 自然資源と文化資産の保護と活用

- ・ 来訪地の解説(C7)
- ・ 文化資産の保護(C1)
- ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)
- ・ 野生生物との関わり(D3)
- ・ 種の搾取と動物福祉(D4)

### (2) 住民参加による地域資源や環境への取組

- ・ 住民参加での環境への取組(A5)
- ・ 水資源の管理や水質管理(D6、D7)

### (3) 地域資源活用における観光マネジメント

- ・ 文化的な場所における来訪者の管理(C6)
- ・ 自然的な場所における来訪者の管理(D2)

## 高橋牧場

### (1) 持続可能な農業のための観光の活用と持続可能な観光への酪農の貢献(農業と観光のお互いの価値向上)

- ・ 観光の経済効果の計測(B1)
- ・ 来訪地の解説(C7)

### (2) 機械化による合理的な酪農による新たな機会とメリット

- ・ ディーセント・ワークと雇用機会(B2)
- ・ 種の搾取と動物福祉(D4)
- ・ 省エネルギー、廃棄物管理(D5、D9)

### (3) 事業がもたらす地域への影響

- ・ 計画に関する規制と開発管理(A9)
- ・ コミュニティへの支援(B4) ・安全と治安(B7)
- ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)

## 総括ワークショップ



※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号

## 参加者の感想

- ・ 観光資源、地域共生など観光業にとって必要不可欠なものをどう維持し活用していくか？ 他人事では無く一人一人が取り組まなければならない事だと深く感じた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症はじめ、良い時も悪い時も永遠でない事を痛感しました。これからここで何をやる事が必要なのか改めて考えさせられた。
- ・ 講師がわかりやすい事例を示して説明くださったので、GSTCへの理解が一步進んだ。



- 日 時: 2020年9月29日(火)～10月1日(木)
- 場 所: 1～2日目 会場: 神奈川県県政総合センター 会議室 横須賀  
合同庁舎 5階ニセコ町民センター 小ホール  
3日目: フィールドワーク: 鎌倉市役所 402会議室
- 講 師: GSTC公認トレーナー 荒井一洋 氏、講師サポート 加藤久美氏
- 参加者数: モデル地区から6名、パートナー地域等から4名 合計10名
- 内 容:

2020年9月29日(火)	13:00-13:05	開会あいさつ
	13:05-14:30	持続可能な観光の全体像と GSTCについて
	14:30-16:00	講義① 持続可能なマネジメント
	16:00-18:00	講義② 社会経済のサステナビリティ
2020年9月30日(水)	9:00-12:00	講義③ 文化的サステナビリティ ※グループディスカッション含む
	13:00-18:00	講義④ 環境のサステナビリティ ※グループディスカッション含む
2020年10月1日(木)	10:00-16:00	DMC Greater Yokohamaプレゼン 鎌倉小町商店会プレゼン・小町通り視察 鎌倉市 市民生活部 観光課 鎌倉の現状 荒井一洋氏によるフィールドワークまとめ

## 1日目～2日目 座学の風景

葉山町より挨拶



荒井一洋氏による講義



参加者より発表



9:00～10:00 (於:鎌倉市役所)

DMC Greater Yokohama シニアセールスディレクター  
関野清志氏より講義



- ①横浜エリアのDMCの在り方について説明いただいた。
- ②当エリアの強み・機会・課題に対してDMCがどのような機能を果たし持続可能にしていけるのか方向性を検討中。(A1)

10:00～11:00 (於:鎌倉市役所・小町通り)

鎌倉小町商店会 会長 今雅文氏より講義



- ①小町商店会最近の成果について説明。(食べ歩きの内容とゴミ対策)(A8,D9)
- ②混雑の緩和対策について説明。(A5,A6,A8)
- ③商店会を歩き、旅行者の行動のマネジメント、住民とのコミュニケーション、歴史に関するインタープリテーションの事例、特に混雑する地点等を説明。(A5,A6,A8,C7,D9)
- ④フクロウカフェなど動物福祉の課題(D4)
- ⑤商店会の方々の快い対応(A4,B3,B4)



13:15～15:00 (於:小町通り)

鎌倉市 市民生活部 観光課 主事 片桐良太氏より講義

- ①鎌倉駅周辺のオーバーツーリズムにの状況と課題への対応について説明。
- ②ハードを変えることは時間も費用も掛かるが、情報の出し方等、ソフト面で対応し、人の動きをコントロールすることにチャレンジしている。(A8)



商店会の視察混雑する地点等の説明。(A8)

配布した紙袋、ゴミ対策 (A8,D9)

※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



## <DMC Greater Yokohama>

- ① DMCの役割・機能について
  - ・ 地域マネジメントの責任(A1)
  - ・ 地域マネジメント戦略と実行計画(A2)
  - ・ モニタリングと成果の公表(A3)

## <鎌倉市 市民生活部 観光課>

- ① 鎌倉駅周辺における観光客増加に伴う課題と対応
  - ・ 住民参加とフィードバック(A5)
  - ・ 来訪者の参加とフィードバック(A6)
  - ・ 来訪者数と活動の管理(A8)

## <鎌倉小町商店会>

- ① ゴミ対策・渋滞対策
  - ・ 住民参加とフィードバック(A5)
  - ・ 来訪者の参加とフィードバック(A6)
  - ・ 来訪者数と活動の管理(A8)
- ② 来訪者・住民とのコミュニケーション
  - ・ 住民参加とフィードバック(A5)
  - ・ 来訪者の参加とフィードバック(A6)
  - ・ 来訪者数と活動の管理(A8)
  - ・ 来訪地の解説(C7)
- ③ 商店会の方々とのコミュニケーション
  - ・ 事業者との協働と持続可能性の基準(A4)
  - ・ 地域事業者の支援と公正な取引(B3)
  - ・ コミュニティへの支援(B4)
  - ・ 種の搾取と動物福祉(D4)

総括(3日間のまとめ)



## <研修全体を通じた参加者の感想>

- ・ 観光振興の行政計画や推進組織での戦略づくりを支援する立場として、サステナブルツーリズムの考え方から38項目の具体的な内容を体系的に学ぶことができたのは、有益な時間でした。
- ・ 講師、参加者同士での意見交換・情報交換ができたことも貴重な時間でした。
- ・ 実践の経験からの具体的なエピソードはとても勉強になりました。

## 1日目～2日目 座学の風景

講義



講義



グループディスカッション



取組報告



「結」による屋根の葺き替え作業や防火対策など紹介



出所: 白川村役場

- 日時: 2020年10月28日(水)～10月30日(金)
- 場所: 1～2日目: 会場: 白川村総合文化交流施設  
3日目: フィールドワーク: トヨタ白川郷自然学校、  
世界遺産白川郷合掌造り集落
- 講師: GSTC公認トレーナー 二神 真美氏、講師サポート 岡田美奈子
- 参加者数: モデル地区から11名、パートナー地域等から4名 合計15名
- 内容:

2020年10月28日(水)	13:00-13:05 開会あいさつ 13:05-15:00 持続可能な観光の全体像とGSTCについて 15:10-18:00 講義① 持続可能なマネジメント
2020年10月29日(木)	9:00-12:00 講義② 社会経済のサステナビリティ 13:00-15:00 講義③ 文化的サステナビリティ 15:10-15:40 取組報告(白川村役場) 「白川村における持続可能な地域づくり」 15:40-17:00 講義④ 環境のサステナビリティ
2020年10月30日(金)	10:00-16:00 フィールドワーク: 体験・視察 10:00-12:30 トヨタ白川郷自然学校 13:00-15:30 世界遺産白川郷合掌造り集落 15:30-16:00 総括、閉会あいさつ



# 白川村 GSTCトレーニング フィールドワーク

## 10:00~10:30 トヨタ白川郷自然学校 校長 山田 俊行 氏の講義

同校は、トヨタ自動車のCSR活動の一環として、自然の中で一流の教育と感動を提供し、その社会的意義を発信することを通して社会に貢献する環境教育施設として、2005年に開校。同社が掲げる「環境チャレンジ2050」の中の「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」のもと、「未来へつなぐ Toyota ESD Project」を通して、次世代を担う持続可能な人材育成の役割を担っている。主な特徴は3つ：

- ①子供から大人まで誰もが泊まれて楽しく体験のできる宿泊型環境教育施設。
- ②自然と人間界の橋渡し役となるインタープリターや山岳ガイドを専属で配置、多様な自然体験プログラムを提供。
- ③官民連携による運営(環境NGO、白川村、トヨタによるNPO法人白川郷自然共生フォーラム)



## 10:30-12:30 学校周辺の自然体験・視察、昼食



雪室の利用



↑ 周辺散策コース案内  
動物や虫への注意喚起の看板→  
(C7,D1,D2,D3)



村立 白川郷学園  
小学生に自然体験学習機会を提供  
(A6,C7)



温泉はバリアフリー対応、客室もバリアフリー対応  
(B8)



食: シカ入り飛騨牛ジビエカレー。アレルギー・ビーガンにも対応。地域の食材を無駄なく活用  
(B3,D9)

環境技術の説明: 太陽光、地中熱、地下水、木質バイオマスなどの自然エネルギーを有効活用(A10,D5,D6,D7,D8,D9,D10)

※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



## 2日目 15:00~15:30 白川村役場 観光振興課 産業振興担当 課長補佐 尾崎 達也氏 取組報告

白川郷合掌造り集落には114棟の茅葺合掌造り家屋が点在し、そのうち59棟が主屋として今なお住民の生活が営まれている。1971年に発足した「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」による保全活動の開始から変わることなく守り受け継がれている。1995年に白川郷合掌造り集落が世界遺産登録、2007年の東海北陸自動車道全線開通により観光客が増加。住民1600人に満たない白川郷に年間215万人を超える観光客が来訪するようになった。バスやマイカー利用の観光客が多く、混雑や渋滞のほか、景観の悪化や住民生活、文化・自然資源への影響などの問題が発生。また、公共施設の維持管理、マナーや防火対策なども課題となっている。一方で、村の人口減少や高齢化などの社会課題も深刻化している。そうした中で、白川村では、日帰り中心の物見遊山の観光ではなく、地域の人々との交流を通して白川村の暮らしの魅力や継承される文化(茅刈り、どぶろく祭など)への理解を促進する体験を通して、リピーターや移住者の増加を目指している。世界遺産や資源の保全、結の文化を基盤とする長く変わらない伝統や資産を大事にしながら、50年先、100年先の持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

## 3日目 13:00~15:30 世界遺産白川郷合掌造り集落視察(尾崎課長補佐ご案内)



↑世界遺産を守る白川村の想いと来訪者への協力を促す看板  
漫画で外国人にもわかりやすく伝える↓



↑集落から少し離れた場所にある駐車場、ここから先は車両進入禁止。ピクトグラムによる柔らかな表現で協力を依頼(A8,B7,B8,C1,C6,C7,D1,D2)



集落の案内図(C7)



村の伝統や文化、合掌家屋での暮らしぶりを紹介(C1,C6,C7),



生活基盤となる水源と水質の管理を徹底(D6,D7,D8)



↑電線のない景観、景観に配慮した自販機  
↓景観を損ねる建物(A9,B6,C1)



放水銃



火に弱い合掌家屋。防火呼び掛けの看板や設備が多数(A9,A11,B7,C1,C6,D1,D2)



集落内は禁煙、フィリップモリスと連携した電子タバコ喫煙所





## トヨタ白川郷自然学校

### (1) 自然資源の保護と活用

- ・ 来訪地の解説(C7)
- ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)
- ・ 自然的な場所における来訪者の管理(D2)
- ・ 野生生物との関わり(D3)

### (2) 気候変動への対応、環境への取組

- ・ 気候変動への適応(A10) ・ 省エネルギー(D5)
- ・ 水資源の管理や水質管理(D6,D7)
- ・ 廃水や廃棄物管理(D8,D9)
- ・ 温室効果ガスの排出と気候変動の緩和(D10)

### (3) あらゆる人が活用できる環境教育施設のマネジメント

- ・ 地域事業者の支援と公正な取引(B3)
- ・ アクセシビリティ(B8) ・ 廃棄物(D9)

## 世界遺産白川郷合掌造り集落

### (1) 文化資源、自然資源の保護

- ・ 来訪者数と活動の管理(A8)
- ・ 計画に関する規制と開発管理(A9)
- ・ 財産権と使用者権利(B6) ・ 文化資産の保護(C1)
- ・ 文化的な場所における来訪者の管理(C6)
- ・ 来訪地の解説(C7) ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)
- ・ 自然的な場所における来訪者の管理(D2)

### (2) マナー対策、観光客の行動管理

- ・ 来訪者数と活動の管理(A8) ・ 安全と治安(B7)
- ・ アクセシビリティ(B8) ・ 文化資産の保護(C1,D2)
- ・ 文化的な場所/自然的な場所における来訪者の管理(C6)
- ・ 来訪地の解説(C7) ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)

### (3) 防火管理、防火対策

- ・ 計画に関する規制と開発管理(A9) ・ 危機管理(A11)
- ・ 安全と治安(B7) ・ 文化資産の保護(C1)
- ・ 文化的な場所/自然的な場所における来訪者の管理(C6,D2)
- ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)

## 参加者の感想

- ・ 最初はイメージがつかめなかったGSTCについて基本を理解できた。
- ・ 白川郷の持続可能な観光地づくりに関し、白川村役場の方のレクチャーとフィールドワークもあり、今後の観光まちづくりに関し大いなる示唆を与えていただいた研修だった。

フィールドワーク前の視点説明、総括



- 日時: 2020年9月30日(水)～10月2日(金)
- 場所: 1～2日目 会場: 職員会館かもがわ 3階「大多目的室」  
3日目: フィールドワーク: Good Nature Station、  
祇園町～清水寺周辺視察
- 講師: GSTC公認トレーナー 高山 傑 氏、講師サポート 岡田美奈子
- 参加者数: モデル地区から8名、パートナー地域等から13名 合計21名
- 内容:

	13:00-13:05 開会挨拶 13:05-14:30 持続可能な観光の全体像と GSTCについて 14:30-16:00 講義① 持続可能なマネジメント 16:00-18:00 講義② 社会経済のサステナビリティ
2020年10月1日(木)	9:00-12:00 講義③ 文化的サステナビリティ ※グループディスカッション含む 13:00-18:00 講義④ 環境のサステナビリティ ※グループディスカッション含む
2020年10月2日(金)	10:00-16:00 フィールドワーク Good Nature Station 講義、視察 祇園町～清水寺視察、総括、閉会

## 1日目～2日目 座学の風景



講義



発表



グループディスカッション





## 10:00~11:00 株式会社ビオスタイル Good Nature Station 常務取締役 館長 山下 剛史 氏

京阪グループでは、SDGsへの取組の一環で「BIOSTYLE PROJECT」を推進している。人にも地球にもいいものごとを、日常生活に、楽しく、無理なく取り入れていくことができる明るい循環型社会の実現を目指している。2019年、京都・四条河原町に、そのフラッグシップとなる宿泊と商業施設から構成される「GOOD NATURE STATION」をオープン。自然由来のものをベースに、心にも体にも楽しく心地よい様々な体験の提供を通して、新しいタイプのライフスタイルを提案している。



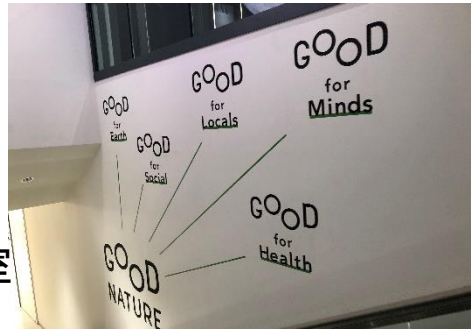
宿泊者以外も参加できる  
ヨガや座禅体験



脱プラスチックや食品ロス削減などはじめサステナビリティ実現につながる様々な取組を実施。についてのご説明。歯ブラシなどのアメニティは、基本おかない。お客様の多くは、アメニティがないことを理解し宿泊。(A6,A10,D5,D9,D10)



自然の照明に  
こだわった客室  
(D5,12)



5つのGOODを基本の考え方とする  
 GOOD for Health「それは健康に良いか」  
 GOOD for Mind「それは心に良いか」  
 GOOD for Local「それは地域に良いか」  
 GOOD for Social「それは社会に良いか」  
 GOOD for Earth「それは地球に良いか」  
 (A1,A2)



サステナビリティ&SDGsへの取組を紹介(A6)

GOOD NATURE HOTEL KYOTOは、世界で初めて、環境や健康に配慮した建物が認定される「**WELL Building Standard (WELL認証)**」をゴールドランクで取得。  
 また、GOOD NATURE STATIONは、グリーンビルディングを評価する「**Leadership in Energy & Environmental Design (LEED認証)**」を、関西で初めて取得。WELL認証とLEED認証を合わせて持つホテルは世界初。(A4)



有機素材や地産地消に根差した食を提供。ビーガン等、多様なニーズに対応(B3,B8,C7)

※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



## 13:00~15:30 祇園町~清水寺周辺視察 高山講師のご説明のもと、持続可能な観光指標に関連する実践状況を視察。



写真撮影禁止  
や静かにする  
ように注意を促  
すマナー啓発  
の看板の数々  
(A8)

散策途中の食べ歩き  
のごみはどこに捨てるのか。  
ごみを捨てないように促す  
はり紙があるだけ(A8)

地元資本率は、どのくらいか。  
商品はどこから仕入れているのか。  
街中の光害や騒音は？(A9,B3,D12)



環境に配慮した  
交通の利用促進  
(D11)



新型コロナウイルス  
感染症対策推進の  
表示(A11,B7)

防火や火の元へ  
の注意を促す札  
(A11,B7)



景観への配慮  
の欠如(C1)

歴史的建造物への  
落書き(A8,C1,C6) 観光トイレ:きれいな  
利用を呼び掛ける看板(A8)

電線のある風景、  
電源のない風景(C1)

※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



## ＜株式会社ビオスタイル Good Nature Station＞

- (1) 5つのGOODを基本の考え方とするSDGsへの取組
  - ・ マネジメントの組織と枠組み(A1,A2)
  - ・ 事業者との協働と持続可能性の基準(A4)
  - ・ 来訪者の参加とフィードバック(A6)
  - ・ 気候変動への適応(A10)
- (2) 地産地消、自然由来の素材の活用
  - ・ 地域事業者の支援と公正な取引(B3)
  - ・ アクセシビリティ(B8)
  - ・ 来訪地の解説(C7)
- (3) 環境に配慮した建築、運営(WELL認証、LEED認証)
  - ・ 省エネルギー(D5) ・ 水資源の管理、水質(D6,D7)
  - ・ 廃水、廃棄物(D8,D9)
  - ・ 光害と騒音(D12)

## ＜祇園町～清水寺周辺視察＞

- (1) マナー啓発、来訪者の管理
  - ・ 来訪者数と活動の管理(A8)
  - ・ 危機管理(A11)
  - ・ 安全と治安(B7)
  - ・ 文化資産の保護(C1)
  - ・ 文化的な場所における来訪者の管理(C6)
- (2) 景観への配慮
  - ・ 文化資産の保護(C1)
  - ・ 文化的な場所における来訪者の管理(C6)
- (3) 観光による地域経済への貢献(リーケージへの対策)
  - ・ 計画に関する規制と開発管理(A9)
  - ・ 地域事業者の支援と公正な取引(B3)
  - ・ 光害と騒音(D12)

### 総括(3日間のまとめ)



## ＜研修全体を通じた参加者の感想＞

- ・ 「先進的な取り組み」として取り上げられてきた事例を、実際に自らのDESTINATIONに組み込む良い機会と思った。
- ・ なぜ観光をする必要があるのか、なぜ持続可能な観光なのか、という根本から理解することができ、とても有意義だった。
- ・ GSTCを推進する際に、具体的に注意する点や、自らも考え方を、どのように変えていかねばならないのかを理解できた。

※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



- 日時: 2020年10月28日(水)～10月30日(金)
- 場所: 1日目:会場:県立博物館美術館 博物館会議室  
2日目:会場:沖縄空手会館  
3日目:フィールドワーク:沖縄県立博物館、沖縄空手会館、漫湖水鳥・湿地センター
- 講師: GSTC公認トレーナー 荒井一洋 氏、講師サポート 加藤久美氏
- 参加者数: モデル地区から12名、パートナー地域等から1名 合計13名
- 内容:

## 1日目～2日目 座学の風景

### 講義



### 地域事例の共有



### アクティビティ・グループディスカッション



2020年10月28日(水)	13:00-13:05 開会挨拶 13:05-14:30 GSTC組織と成り立ち 持続可能な観光の全体像とGSTCについて 14:30-16:00 講義① 持続可能なマネジメント 16:00-18:00 博物館常設展示 視察・説明、まとめークシヨップ
2020年10月29日(木)	9:00-12:00 講義② 社会経済のサステナビリティ 講義③ 文化的サステナビリティ 13:00-16:00 講義④ 環境のサステナビリティ 16:00-18:00 総括のワークショップ 議題: 経済(地球経済利益向上)、文化(地域無形文化(しま言葉)保護・空手の活用)、自然環境(脱プラ・離島のゴミ処理・固有種保全等)
2020年10月30日(金)	9:30-12:00 沖縄空手会館視察 北部東海岸地域観光開発への取組紹介 13:00-14:30 フィールドワーク: 漫湖水鳥・湿地センター 14:30-15:30 3日間の振り返り、閉会あいさつ



## 10月28日 16:00 - 17:00 沖縄県立博物館 博物館 上原副館長、大湾博物館副班長

沖縄県立博物館は、沖縄の自然・歴史・文化に関する資料を体系的に広く調査研究、収集、保存し、県民及び県外・国外の方々に展示し、これらに関する知識と理解を深め、本県の文化の向上、発展に資することを目的として設置された。沖縄を訪問する多くの修学旅行生はこの施設を訪れ、沖縄の自然、文化、歴史の地の集積拠点としての役割を果たしている。(C1,C2,C7,D1,D2,D3)

上原副館長から博物館の概要、説明を受けた後、大湾ゆかり様他から2手に分かれて館内視察。万国津梁の鐘、歴史屏風図から垣間見える当時の風景、戦時中、戦後の文化等、多岐に亘って研修生たちに対して説明があった。



館内の歴史エリア



## 10月29日 10:00 - 12:00 沖縄空手会館 中村靖館長 の案内で視察

沖縄を発祥地として、今や世界中に愛好家がいるといわれる「空手」。沖縄空手会館は、沖縄空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させ、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信し、伝統空手の真髄を学ぶ拠点となる施設。沖縄本土復帰40周年記念事業の一環として構想がスタートし、旧豊見城城址公園跡地の一角に道場施設、展示施設、特別道場、屋外鍛錬場、駐車場などが整備されている。国内外の空手関係者とともに、空手の未経験者、観光客にも開放されている。(C3,C6,C7)



中村館長からの講座・案内



山川課長から設立経緯説明 →



将来は豊見城の御嶽(うたき)に奉納する取り組みを地域自治体と対話を始めている。(C6,D2)  
空手家の想いを掲げる「空手の樹」↓

←沖縄空手会館は無形文化遺産である空手の伝承の中心地としての整備 (C3)



←持続可能な運営のため空手と地域の食をつなげたコシの強い自家製麺の「空手そば」を開発。ポーク玉子おにぎりも「黒帯」等SNSを意識したコミュニケーションも検討 (B1,B2)





赤瓦ちょーびん 氏からの講座

## 10月30日 11:00 - 12:00 豊見城地域の地域観光

赤瓦氏と沖縄空手会館は同施設が立地する豊見城地域を含む沖縄観光の新たなルートへの提案に取り組んでいる。

具体的には、未だ知られていない北部東海岸観光地の提案について、自治体との対話を重ね、豊見城が漫湖で始めたハーリーや御嶽(うたき)にまつわる物語を、琉歌(地域の歌碑などを利用してのストーリーづくり)や海軍壕(平和学習)など分散する資源をつなぐ沖縄の植物を交えながら楽しく紹介した。

沖縄全土で見れば混雑緩和の新ルートの開発であり、地域としてはコミュニティベースドツーリズムの開発につながる取組である。



地域住民しか入れない御嶽エリアへの参拝(A5,D6)

沖縄地域の植生についての説明(D1,D3)  
県外からの訪問者にとっては説明を受ければ観光素材になる美しい花や特色のある植物が多数自生している。↓



↑豊見城のハーリー発祥の地碑

漫湖ではじめて豊見城主の南山王が漫湖にて始めたといわれており、城跡を発祥の地としている。

※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



↓歩く木のガジュマル

地域の祈りの場、御嶽を前に場所の文化的意味や、入域規制等の説明を受ける研修生(C1,C4,C6) ↑ ← ↓







## 13:00～15:00 漫湖水鳥・湿地センター 池村さん、比嘉さんによる案内

ラムサール条約登録湿地である漫湖。那覇の中心街からほど近い、都会の中にある湿地で、水鳥やカニ類など実に様々な生き物が観察できる。クロツラヘラサギを含む200種の鳥類をはじめ、鳥たちの餌となるカニや貝、ゴカイなどの底生生物も豊富で沖縄の生物多様性の豊かさを保全する場所である。湿地センターでは年40回のワークショップやイベントを通じて湿地の役割やその重要性を訪問者や地域住民に伝えている。(D1、D10、A10)



視察前の事前レクチャー



ミナミビハゼ、シギの足跡

赤土の海への流入を食い止めるため海岸線に琉球古来の植生である月桃を植える「月桃プロジェクト」(D1)



フィールドワークの様子



※()内は、主に関連するGSTC-Dの指標番号



木道を整備し、案内板を設置し、開館時間であれば湿地を誰でも自由に常時観察できる環境を整備している。(D2、D3)

マングローブは海岸線に緑生を作り出し、温室効果ガスの吸収を促す一方、湿地に根を張り陸地化を促進し、生物多様性を脅かす存在でもある。



漫湖のマングローブは地域外来種という議論もあり、湿地保全のため、マングローブを適切に伐採して湿地保全を進めている。しかしながら人手は足りない。自然保全体験へ昇華させ双方よしの連携が模索されている。(D1,D10,A10)



## 沖縄空手会館

- (1) 自然資源と文化資産の保護と活用
  - ・ 来訪地の解説(C7)
  - ・ 文化資産の保護(C1)
- (2) 住民参加による地域資源や環境への取組
  - ・ 住民参加での環境への取組(A5)
  - ・ 水資源の管理や水質管理(D6、D7)
- (3) 地域資源活用における観光マネジメント
  - ・ 文化的な場所における来訪者の管理(C6)

## 漫湖漫湖水鳥・湿地センター

- (1) 自然資源と文化資産の保護と活用
  - ・ 来訪地の解説(C7)
  - ・ 配慮が必要な自然環境の保護(D1)
  - ・ 野生生物との関わり(D3)
- (2) 住民参加による地域資源や環境への取組
  - ・ 住民参加での環境への取組(A5)
  - ・ 水資源の管理や水質管理(D6、D7)
- (3) 地域資源活用における観光マネジメント
  - ・ 自然的な場所における来訪者の管理(D2)

## 総括ワークショップ



## 参加者の感想

- ・ 観光資源、地域共生など観光業にとって必要不可欠なものをどう維持し活用していくか？ 他人事では無く一人一人が取り組まなければならない事だと深く感じた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症はじめ、良い時も悪い時も永遠でない事を痛感しました。
- ・ 講師がわかりやすい事例を示して説明くださったので、GSTCへの理解が一步進んだ。
- ・ 自地域の観光をまず知り、今回学んだコトを照らし合せていきたい。
- ・ 行政も巻き込みながら、これまでの取組みを修正しつつ進めたい。
- ・ 様々な角度を学んだ。
- ・ 観光に地域コミュニティを如何に包摂するかが重要だと感じた。
- ・ 観光は経済だけでなく地域産業につながる産業だと再認識した。



## GSTC トレーニング前後での観光指標への理解度に関する効果検証

GSTC トレーニングの効果を検証するために、モデル地区 5 地区のご担当者を対象に、トレーニング前後で、観光指標に対する意識を調査しました。初回の調査は、トレーニング受講前の 2020 年 2 月に実施しました。GSTC トレーニング前後の回答の主な変化と、それに基づき示唆された研修の効果については以下のとおりです。

### 1. 結果の概要

(1) GSTC トレーニング前後でのモデル地区による回答結果を比較すると、主に以下のような変化がみられた。

- ・ すべてのモデル地区において、「わからない」の回答が減少した。
- ・ 白川村を除き、「ない、いいえ」の回答が減少した。
- ・ すべてのモデル地区において、「ある」の回答が増加した。

(2) 「分からない」の回答について

- ・ 京都市と葉山町で多めの傾向がみられるものの、トレーニング前後で、その数は、減少した。

(3) 「ない、いいえ」の回答について

- ・ ニセコ町においては、トレーニング前には、「ない、いいえ」の回答が 118 件あったが、トレーニング後には 18 件と大きく減少した。
- ・ 沖縄県では、トレーニング前には「ない、いいえ」の数が 44 件あったが、トレーニング後には 18 件に減少した。

(4) 「ある」の回答について

「ある」の回答は、モデル地区全般において増えた。概して、トレーニング前と比べると 2～3 割の増加となった。

- ・ ニセコ町では、45 件だったのが 107 件と大きく増加した。
- ・ 葉山町でも 15 件から 28 件と倍近く増加した。
- ・ 京都市では 80 件から 104 件に増加した。
- ・ 白川村では 21 件から 29 件に増加した。
- ・ 沖縄県では 79 件から 117 件と大きく増加した。

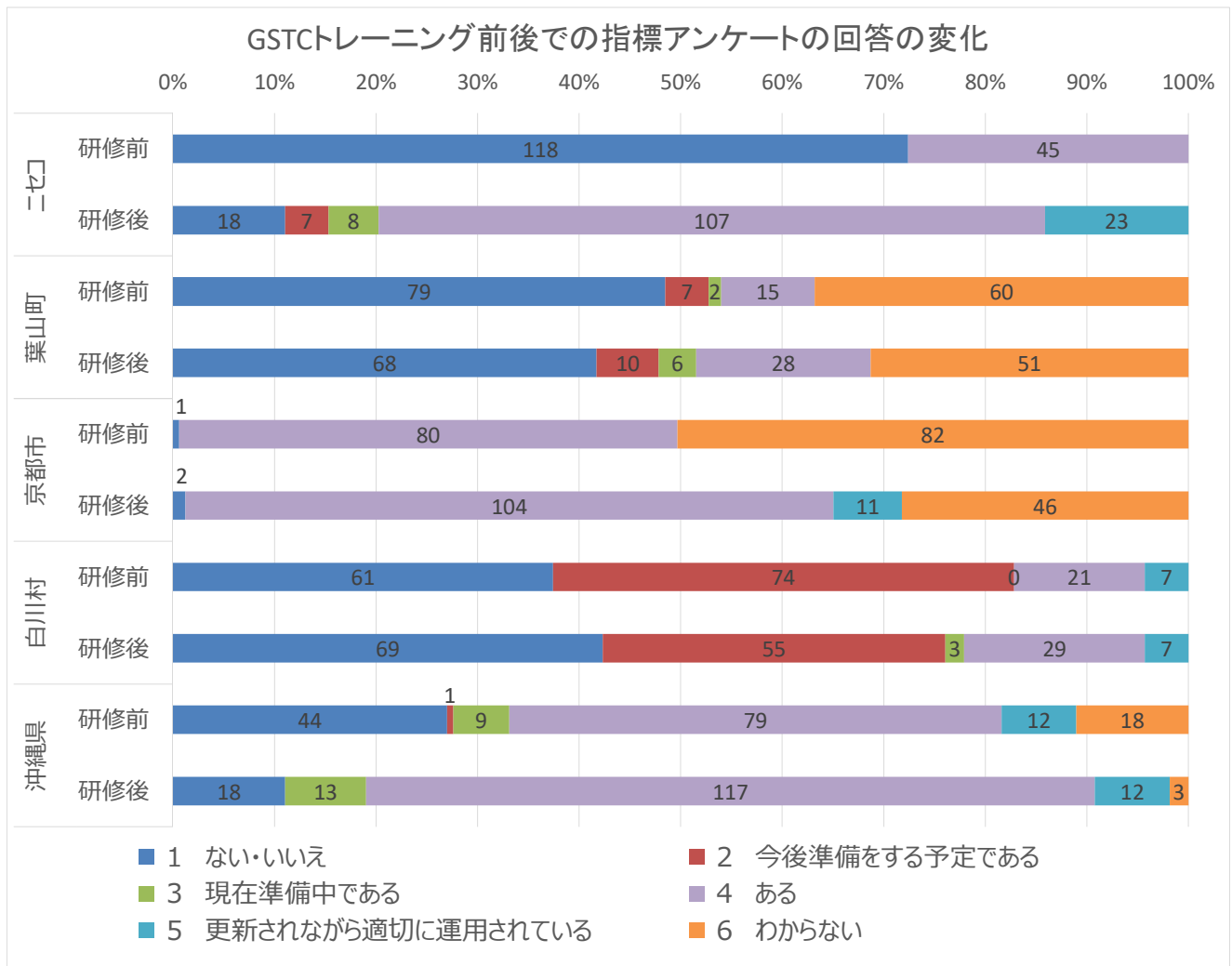
(5) 「更新されながら適切に運用されている」の回答について

- ・ ニセコ町、京都市では、「更新されながら適切に運用されている」の回答が増えた。

### 2. GSTC トレーニング受講による効果

GSTC トレーニングの主な効果は、「指標について正確に理解できたこと、理解が深まったこと」である。トレーニングを受講することで、指標の正しい考え方のもと、的確に自地域の持続可能な観光への取組状況について改めて把握し、回答することができたものと考えられる。





【和歌山大学 観光学部 加藤 久美教授 総評】

GSTC 研修を含めた JSTS-D 導入は、大変短い期間で実施された。コロナ禍で新しい取組を進展させることが困難な状況であるにもかかわらず各地での回答結果で明らかに変化が見られた。これはひとえに、GSTC トレーニングプログラムを受講したことによって、「持続可能な観光とは」、「観光指標とは」、「国際的に求められている基準とは」ということへの理解が深まったことに他ならないだろう。

対比結果から、全体を通して各地で観光指標への理解が深まり、国際的に求められていることが、実は多くの分野で予想以上に取り組んでいるということが判明した。反対に、理解が深まったことにより、前回の自己評価が甘かった点も浮き彫りになった。

総じて GSTC トレーニングプログラムの成果として、正しく自己評価、現状把握が進んだと考えられる。今後、日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の取組を検討している地域においては、GSTC トレーニングプログラムを受講し、国際基準に関する知識を深めて効率的な取組につなげていただきたい。

以上